



四万十町
町内 **ぶら〜り** 散策

仁井田



もとは「柿木山村」といった。正確にいえば旧柿木山村の一部ということになる。現在の「仁井田」と「本田（ほんでん）」を併せた地域が柿の木山村であった。そのことから推測できるが、現在の仁井田は新田開発（江戸初期）をした地域である。

1815年に編纂された地誌（Ⅱ）ある地域について自然・人文両方面から研究・記述した書物。郷土誌などの類（デジタル大辞泉より）である「南路志」によれば「柿木村」とあり、また、戦国期の地検帳では「柿山村」とも「柿木山村」とも記されている。

高知道・四万十町中央インターチェンジのある平串から国道56号（中村街道）を久礼方面へ。東又方面へ行く県道52号との三叉路を過ぎると間もなく右手に洋菓子店があり、この辺りから仁井田ということになる。北は辻ノ川までである。この洋菓子店のあるところに、国道と別れて斜めに入っていく道がある。この道が旧中村街道で、500mくらいではあるが、なるほどその昔は栄えたのであろうという趣がある。

戦前、この旧街道に豪商があったそう。その豪商は、もとは東川角で酒造業を始め、しばらくしてこの仁井田に移り、その後は醤油作り、肥料の販売、さらにはハイヤー事業や運送業まで手を広げていた。しかし、戦



ハイヤー事業の写真が残っている

争が激化する頃になると国家統制が厳しくなり、あらゆる物品の生産、流通が思うようにならず、事業は縮小・撤退せざるを得なくなっていたのだという。

また、幕末の時代には勤王の志士を目指した者もいた。東又・弘見地区で登場した「与津時屋清次」である。1832年、与津地に生まれた清次は、幼少の頃に父親とともに柿の木山村に移り住み、ここで魚の行商をして暮らしていた。1853年、清次が20歳の時に浦賀沖にペリーが来て、世の中は大騒ぎになる。清次は相撲がめつぼう強く、近隣に敵なしと言われていたのだが、さらに弘見村の道場に通い、剣術の修行も積むようになる。勤王の志士を目指したのである。その後の清次の運命は、弘見村の紹介の回に記した通りである。

さて、柿の木山村は明治9年、辻ノ川村・神有村・小神有村・浜ノ川村と合併して仁井田村となった。現在、仁井田には116世帯、およそ250人が暮らしている。

町のうごき

(11月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,420	-22	男 3	20	7	12
女	9,417	-24	女 4	21	6	13
計	17,837	-46	計 7	41	13	25
世帯数	8,634	-8	(11月中の届出)			
窪川地域	12,510人		大正地域	2,558人	十和地域	2,769人

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	12月12日
リン酸	≤ 1.0	0.103
硝酸	≤ 0.5	0.21
アンモニウム	≤ 5.0	0.231
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.75
化学的酸素要求量	≤ 10.0	5.362

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部